



世田谷
いいとこ、
見つけた

日々の買い物を「エシカル消費」にチェンジ ピープルツリー（フェアトレードカンパニー株式会社）

フェアトレードの実践で 誰もが幸せに暮らせる世界の実現を目指す

フェアトレードカンパニー株式会社は、ロンドンおよび東京の金融機関勤務だったジェームズ・ミニーさん（現・代表取締役）とともに、来日したパートナーのサフィア・ミニーさんが日本で立ち上げた環境・国際協力NGO「グローバル・ヴィレッジ」のフェアトレード事業部門として生まれ、1995年に法人化された企業で、「ピープルツリー」は同社のブランド名です。「環境と貧困問題についての啓発」を目的にしているグローバル・ヴィレッジが母体のため、単に物を売るだけではなく、「どこで誰がどんなふうにしたのか」や「地球を大切に」といった情報とともに発信しています。企画・販売する商品はすべてフェアトレードの指針に基づき作られています。

フェアトレードとは、開発途上国の原料や製品を公正な価格で継続的に取引する「貿易の仕組み」で、その目的には「途上国の生産者・労働者の自立支援」が含まれています。同社は、WFTO（世界フェアトレード連盟）に認証されている多くの団体とパートナーシップを結び、途上国生産者の労働環境改善に加えて「人としての尊厳」を感じられる取組みや情報発信も実施。直接の関係者だけではなく、地域コミュニティの生活水準が向上するようなサポートを心がけているといいます。「世界中の人が幸せに暮らせる社会」を目指し、「フェアトレード」の考え方を実践する事業展開を続けています。

「エシカル消費」でつながる 生産者と消費者

フェアトレード専門ブランド「ピープルツリー」の商品は、衣料品・雑貨・食品など幅広いラインナップですが、特にファッションに力を入れています。衣料品製造の場合、綿花栽培・製糸・縫製・染色など多くの工程があるため、様々な人に就業機会を提供できるだけでなく、デザインなどで付加価値を生みやすいメリットがあります。

文化や価値観が違う日本の市場で売れる商品を作るために、商品企画は日本で行っています。フェアトレードを知らなくても「素敵だから」と手に取ってもらえるよう、デザインに特にこだわっています。

（コロナ以前は）実際に現地に赴き、丁寧なフィードバックや技術サポートをするなど、生産者との対等なコミュニケーションを大切に、ものづくりをしています。

このように、生産背景の透明性を大事にする企業と、価格以外の価値観に関心を持つ消費者が増えれば、日々の買い物が人・社会・地域・環境に配慮した「エシカル消費」になります。そのため、同社では学校関係者からの講師依頼にも積極的に対応しているほか、自由が丘店やオンラインで「フェアトレードの学校」を開催するなど、消費者にもメッセージを伝え続けています。また、「フェアトレードタウン世田谷推進委員会」にも加盟し、世田谷区がフェアトレードタウンとして認定されることを目指した地域活動にも参加しています。

また、「フェアトレードタウン世田谷推進委員会」にも加盟し、世田谷区がフェアトレードタウンとして認定されることを目指した地域活動にも参加しています。

社会貢献と聞くとハードルが高いと感じてしまう人も多いですが、「買い物を楽しむ」ことなら気軽に継続できるのではないのでしょうか。同社の取組みは、生産者と消費者を「エシカル消費」でつなげるモデルケースのひとつといえそうです。



25年以上のロングセラーアイテム「フェアトレードチョコレート」（秋冬限定販売）



商品タグには素材だけではなく生産者情報も記載
広報・啓発担当 鈴木 啓美さん



ピープルツリー 自由が丘店 目黒区自由が丘3-7-2 Tel:03-5701-3361
※最新情報はtwitterにてご確認ください

ピープルツリー（フェアトレードカンパニー株式会社）
奥沢5-1-16-3階 Tel:03-5731-6671
<https://www.peopletree.co.jp>

